



— 研修会での学びを積極的に活用しましょう・伝講しましょう —

## 「第2回算数・数学授業づくり研修会」

7月12日（水）に小学校教員（中学校教員希望）を対象に「算数の授業づくり研修会」を行いました。講師は、宮城教育大学附属小学校の三井雅視先生でした。栗駒南小学校の6年生と一緒に「比の利用」の授業をしていただきました。

子供たちが問題場面との出会いから授業にのめり込み、自力解決中、一人一人の考えを目線を同じにしながらかまきや考え方を丁寧に聞き取ったりアドバイスしたりする姿が印象的でした。集団解決中、意図的に指名し、誤答を活用したりペアやグループワークを取り入れたりしながら線分図などを基の一つ一つの考えの良さや気づきを引き出したり板書に残したりして、考えの根拠をみんなで考えさせ深め合う授業でした。講話は「算数の授業づくりのポイント」について、文献や事例を基に丁寧に解説していただき、問いの重要性や算数科の見方・考え方等について理解を深めることができました。

事後の感想には「子供たちの意見が多く飛び交う6年生の授業を久しぶりに見た感じがしました」「児童の考えをつなぐ工夫がいくつもあって感じました。児童の気持ちを大切にしながら、全員で答えへの道りを歩んでいたように思いました」「子供に問い続けて、考えを引き出すことの大切さを理解しました」「子供たちが『なるほど』と思えるような展開でした」「答えはすぐに知らせず、どうしてそうなるか（方法）、なぜそうなるか（根拠）を考えさせることが大事だと思いました」などがありました。



## 「標準学力調査結果の分析研修会」

6月30日（金）に小・中学校教員を対象に「標準学力調査結果の分析研修会」を行いました。講師は東京書籍東北支社の千葉祐治氏でした。

講義の内容は「標準学力調査の『段階評価方式』-「測定」と「診断」を兼ねた新しい帳票-について」でした。その中で「標準学力調査とは、学習指導要領の内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、どの程度学習内容が身に付いているかを測定する調査で、正誤情報から正答率と正誤パターンの2つの評価方法（ものさし）で学習内容を測定すること」「学力ステップごとの小問正答率から理解度・習熟度の差を明らかにすること」「児童・生徒の成績集計表〔ステップ〕で得意・不得意を確認すること」などや「学力調査 Web サービス〔Web 評価支援システム〕の紹介」もあり、分析結果を授業改善に生かすための復習用教材やシートなどの説明がありました。ただ、Web 評価支援システムの閲覧可能期間が10月末までとなっていますのでご注意ください。

年度内に2回目の標準学力調査が実施されますので、各校・各学級・各児童生徒の課題をしっかりと分析し、確実に1回目の課題改善が図られるように取り組んでください。